

A
2024
SEPTEMBER
[第2016回]
👁️👁️

いつまでも都会に
染まらない朴訥な苦勞人
アントン・
ブルックナー
Anton Bruckner (1824-1896)

遅咲きの苦勞人ブルックナーが心酔していた作曲家はワーグナー。だが、当時のウィーンの楽壇では、大作曲家ブラームスの友人であり音楽評論家のハンスリックが、舌鋒鋭くワーグナー批判を展開していた。ブルックナーは「ワーグナー派」とみなされてハンスリックに睨まれ、ブラームスとも疎遠だったが、ウィーンに住む者同士、レストランで同席することもあったとか。相席したときには、意外にもおだやかで楽しいひとときを過ごしたという。

ブルックナーとブラームス

派閥(?)は違えど、その才能には敬意を表していたようで、ブラームスはブルックナーの《交響曲第6番》の演奏を聴いて、拍手を惜しなかったという。また、ブラームスの蔵書には、ブルックナーの《交響曲第7番》が収められていた。レストランで同席した際には、2人共通の好物、レバークネーデル・ズッペを食したという。



一緒にレバークネーデル・ズッペを楽しむ2人。
クネーデルは団子、ズッペはスープの意で、
レバーのミートボール・スープのようなもの
イラストレーション: ©IKE

